



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 1月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.190 2022.12

紹介内容 (12/1~12/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 気仙沼農改：気仙沼地区農業士会視察研修会を開催しました
 - 仙台農改：農事組合法人イーストカントリー仙台的佐々木均氏と佐々木千賀子氏が令和4年度「緑白綬有功章（農事功労者複合部門）」を受賞しました。
 - 仙台農改：仙南農業士会及び仙台農業士会交流会が開催されました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツ（小松）収穫調整作業見学・栽培研修会を開催しました
 - 大崎農改：JA古川なす部会共販実績検討会を開催しました
 - 登米農改：令和4年度登米地域農作業安全対策研修会を開催しました
 - 亘理農改：亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
 - 仙台農改：令和4年度JA仙台・米食味コンクールが開催されました
 - 亘理農改：亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 3
 - 美里農改：みやぎ農業未来塾「若手農業者のためのねぎ講座」を開催しました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾（農薬基礎勉強会）を開催しました
 - 栗原農改：ルールガイド講習会が開催されました
 - 大河原農改：新たな担い手法人の設立を目指して
 - 石巻農改：石巻4Hクラブ青空市の開催
 - 登米農改：東北農村青年会議所秋田大会で登米4Hクラブ員が最優秀賞を受賞しました
 - 登米農改：女性農業者集合研修を開催しました
 - 大河原農改：仙南4Hクラブが先進地視察研修を開催
 - 大崎農改：みやぎ農業未来塾「農業経営力向上研修」を開催しました
 - 気仙沼農改：地元高校生が管内の新規就農者・農業法人について学びました
 - 登米農改：令和4年度農業次世代人材投資事業サポート巡回を実施しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 石巻農改：石巻市和湊にて「スマート農業」研修会が開催されました！
 - 仙台農改：第6回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 8
 - 仙台農改：若手梨生産者交流会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：岩沼市玉浦地区に新しいきゅうりの生産施設が完成しました
 - 登米農改：JAみやぎ登米ねぎ部会の講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の視察研修が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米花卉部会のストック出荷査定会及び現地検討会が開催されました

- 栗原農改：きゅうりの実績検討会及び品種選定会が開催されました
 - 登米農改：登米ポテト組合ばれいしょの新規栽培者向け講習会及び打合せ会が実施されました
 - 大崎農改：JA加美よつばねぎ栽培講習会を開催しました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会せん定講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地区せり出荷目揃え会が開催されました
 - 大崎農改：ぶどうせん定講習会
 - 美里農改：日本なしのせん定講習会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 栗原農改：大豆の刈取適期判定巡回を行いました
 - 登米農改：れんこんの掘り取り作業が行われました
 - 美里農改：松山町酒米研究会作柄検討会が開催されました
 - 大崎農改：大崎地域水稻乾田直播栽培研修会を開催しました
 - 栗原農改：令和4年度稲作実践盟友会稲作経営総合検討会が開催されました
 - 登米農改：令和4年度JAみやぎ登米米山水稲部会稲作総合検討会が開催されました
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 大崎農改：大崎市「ささ王決定戦2022」が開催される
 - 気仙沼農改：金のいぶき栽培拡大に向けた研修会を開催しました
- ⑦ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 気仙沼農改：地元高校生が鳥獣害対策について学びました
 - 登米農改：宮城県庁において生活研究グループの販売会が行われました
 - 大崎農改：やくらい土産センターおもてなし研修会を実施しました
 - 気仙沼農改：「JA新みやぎ南三陸地区農産物共進会」が開催されました
 - 大崎農改：直売所の活性化に向けた研修会を開催しました
 - 石巻農改：「令和4年度石巻地域農福連携推進研修会」を開催しました
 - 美里農改：美里地区女性農業者キャリアアップ研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ農産物直売所「菜果好（なかよし）」のアドバイザー指導会が開催されました
 - 美里農改：美里地区女性農業者技術向上講座を開催しました
 - 石巻農改：若手女性農業者が石巻地域の伝承料理を学びました
- ⑩ 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 大河原農改：仙南農業士会と仙台農業士会との交流会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○気仙沼地区農業士会視察研修会を開催しました

令和4年12月7日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年11月11日、気仙沼地区農業士会は南三陸町内で視察研修会を開催しました。地区の農業士会会員に加え就農希望者も参加し、関係機関を含めて7人が参加しました。

研修会では、南三陸町にある株式会社グリーンファーマーズ・宮城のねぎ栽培の取組を視察しました。はじめに、渡部代表取締役より、就農、法人化までの経緯や法人としてねぎ経営を行うポイントについて話していただきました。続いてねぎの調製場に入り、根切り、皮むき、選別、箱詰めについて作業の実際を見学し、効率的に作業を行うポイントを説明していただきました。

その後、ねぎ生産ほ場へ移動し、ねぎ栽培の概要について話していただくとともに、作土層が浅いほ場や排水不良ほ場での栽培の工夫について教えていただきました。

研修を通し、渡部代表取締役を含めた参加者で活発に意見交換がなされ、良い情報交換の場となりました。

○農事組合法人イーストカントリー仙台の佐々木仁氏と佐々木千賀子氏が令和4年度「緑白綬有功章(農事功労者複合部門)」を受賞しました

令和4年12月8日

仙台農業改良普及センター



公益社団法人大日本農会が、明治27年から実施する「農事功績者表彰」において、令和4年度は宮城県から推薦した仙台市若林区農事組合法人イーストカントリー仙台佐々木均氏、佐々木千賀子氏が「緑白綬有功章(農事功労者複合部門)」に受章され、令和4年11月17日に東京で開催された表彰式で表彰されました。

この表彰事業は、農業における新しい技術や経営の改善に挑戦され、立派な経営を築かれるとともに、地域のリーダーとして技術の導入・普及、産地の形成、青年農業者の育成等に大きな貢献をされてきた農業者、並びに農業技術の普及、研究開発等に寄与された方々を対象に、歴代総裁宮殿下(現在は、第7代秋篠宮皇嗣殿下)により表彰されるものです。

今回の表彰の事由は、水稻の多品種栽培や6次産業化への取組により地域農業復興のモデルとして活躍したことに加え、地域農業を支える次世代の人材育成に寄与したことが高く評価されました。

誠にありがとうございます。

○仙南農業士会及び仙台農業士会交流会が開催されました

令和4年12月19日

仙台農業改良普及センター



令和4年度仙南農業士会及び仙台農業士会交流会が令和4年12月6日に仙南地域で開催され、仙南農業士会12名、仙台農業士会4名、事務局3名、計19名が出席しました。

視察研修では、角田市の合同会社あぐりっとかくだ、有限会社角田健土農場、蔵王町の株式会社ゼルコバドリームのヨーグルト工房Atreyu(アトレイユ)、白石市の木須農園の取組を学び、とんとんの丘もちぶた館で昼食交流会も実施しました。

農業士の方々は、各研修場所で活発な意見交換を行い、コロナ禍でも積極的に投資を行い、直接販売することで売上げを確保する等様々な取組に感銘を受けるとともに、前向きな活動に元気をもらった様子で、大変有意義な交流会となりました。

今後も、普及センターでは先進的な経営に取り組む農業士を支援していきます。

○枝もの用クロマツ(小松)収穫調整作業見学・栽培研修会を開催しました

令和4年12月20日

気仙沼農業改良普及センター

令和4年12月12日、南三陸町を会場に、県とみやぎクロマツ研究会の共催による枝もの用クロマツ（小松）収穫調製作業見学・栽培研修会を開催しました。

参加者は、クロマツを栽培している株式会社南三陸 Pine Pro（以下「パインプロ」と略す）の関係者2名、県内クロマツ栽培者及び栽培希望者21名、県・市町村関係者13名、合計36名でした。

今回の研修は、クロマツの枝（通称「小松」）をハサミで収穫し、大きさ別に選別する作業について学びました。

収穫ほ場では、どのような枝が商品になるのかをパインプロ後藤代表が説明し、選別作業については後藤代表をはじめ、実際に作業をしている担当者から説明してもらいました。

後藤代表からは、「一回聞いただけでは分からない、現場で作業をしてようやく理解できる」、「ほ場の作業と選別作業を一人で覚えるのは無理なので、夫婦や親子で分担して作業を覚えるようにする必要があります」等、厳しいながらも実際に役立つアドバイスがあり、参加者もうなずいていました。

パインプロの小松収穫は12月下旬まで続く見込みで、30万本出荷するとのことでした。

普及センターでは、今後もクロマツ生産とパインプロの運営支援を継続的に行っていきます。



○JA 古川なす部会共販実績検討会を開催しました

令和4年12月23日
大崎農業改良普及センター

大崎管内の古川地域は、県内一のなす産地です。一方で、長年の連作による青枯病の被害に悩まされてきました。そのため、当普及センターでは今年の8月に糖蜜吸着資材を使用した土壌還元消毒を実施し、

その効果を検証しました。

令和4年12月15日にはJA古川なす部会共販実績検討会が開催され、当普及センターから、糖蜜吸着資材を使用した土壌還元消毒について、原理や作業工程、菌密度の試験結果を情報提供しました。試験を実施した青枯病多発ほ場の生産者からは、「コストは高いが、それに見合うだけの効果が得られた。現在作付け中のちぢみこまつなの生育も良好である。」との評価をいただきました。

当普及センターでは、今後も古川地域で生産されるなすの品質向上に向けた支援を行っていきます。



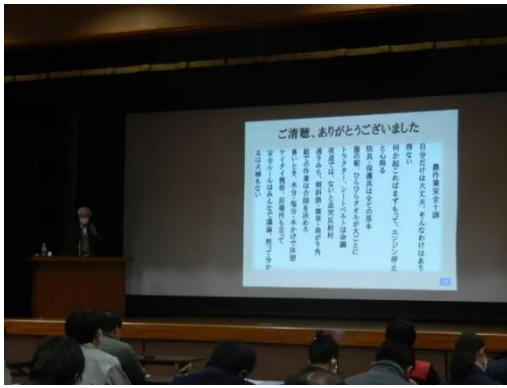
○令和4年度登米地域農作業安全対策研修会を開催しました

令和4年12月23日
登米農業改良普及センター

令和4年12月20日、登米市中田農村環境改善センターにおいて、令和4年度登米地域農作業安全対策研修会を開催しました。この研修会は、農業法人経営者が作業事故のない環境づくりに取り組むために必要な農作業の安全対策を学ぶ場となるよう、登米市と当事務所が主催したものです。

当日は、農業法人経営者等72人が参加し、まず最初に農作業安全対策等について一般社団法人日本農業機械化協会の氣田（けた）技術顧問から講義があり、次に労働災害の現状と対策について瀬峰労働基準監督署 堀内署長から講義がありました。それぞれの講師からは、農作業事故の事例や経営トップの安全対策に対する心構えなどについて説明があり、参加者はメモを取りながら熱心に受講していました。普及センターでは、今後も研修会等を通じて、農作業安全対策の充実強化を支援していきます。





○令和4年度 JA 仙台・米食味コンクールが開催されました
 令和4年 12月 28日
 仙台農業改良普及センター



令和4年12月21日にJA仙台主催で「米食味コンクール」審査委員会の最終選考がJA仙台北店で開催され、審査委員長として普及センター所長が審査に当たりました。

本年は、出穂前の6月上旬の低温寡照による生育遅延に加えて、地域によっては7月中旬の記録的豪雨の被害があったもの、出穂後の気象は比較的安定しており、米の品質は過去10年で最も高く、また食味もレベルの高いものが集まりました。

審査委員会では、食味分析と外観品質測定の結果をスコア化し、そのスコア合計をもとに受賞者が決定されました。総出品数は624点で、「ひとめぼれ」「ササニシキ」「まなむすめ」「その他（つや姫、コシヒカリなど）」の4部門を通して、最終評価が最も高かったものから、食味大賞1点（4部門全体の中で最も評価の高かった1点を選出し、以下各部門ごと選出）、最優秀賞4点（各部門1点）、優秀賞8名（各

部門2点）が選出されました。食味大賞は、庄子栄氏（宮城支店管内）の「ひとめぼれ」が受賞しました。近年、米生産については、量より質が重要視されています。「米食味コンクール」を通し、上位者の技術やノウハウなどの傾向を分析することで、良食味を追求したJA仙台米が生産されると期待されます。普及センターでは、JAと連携してさらなる高品質米が生産できるよう支援してまいります。

○亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
 令和4年 12月 28日
 亘理農業改良普及センター

管内の農業法人を対象に、労務管理能力の向上による雇用改善をねらいとした亘理名取地区地域営農推進研修会を、令和4年12月8日に開催しました。株式会社ノースエム代表取締役の宮村昌吾氏を講師に招き、「農業経営における基本的な雇用管理と農業版人事評価制度導入による雇用の維持・拡大」をテーマに御講演をいただくとともに、令和5年10月から導入される消費税のインボイス制度について、仙台湾税局、東北農政局の担当官から情報提供いただきました。

講演では、人事評価制度の必要性や作り方、制度の運用等、事例を交えた具体的な内容の説明があり、27名の出席者は熱心に聴講し、事後アンケートでは、「今後、我が社でも人事評価制度を取り入れていきたい」等、前向きな回答が多数見られました。普及センターでは、管内の農業経営発展のために、今後も支援を行ってまいります。



②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「若手農業者のためのねぎ講座」を開催しました
 令和4年 12月 1日
 美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センター管内では、ねぎ栽培に取り組む若手農業者が増えてきていますが、地域が点在しており、情報交換の場が限られていました。また作型も、夏から秋の出荷がほとんどで、市場単価が低く出荷時期も集中することから、作期の拡大が課題となっています。

そこで、11月15日に農業・園芸総合研究所を会場として、新しい作型の知識習得や交流を目的とした研修会を開催しました。

初めに、野菜部露地野菜チームの鹿野上席主任研究員より、「宮城県における夏播き秋定植による長ネギ5～6月どり栽培」をテーマに、通常は端境期である5～6月に出荷が可能となる技術について情報提供がありました。

続いて、参加者それぞれが、自分の経営概要と栽培で課題になっていることなどを中心に情報交換を行いました。排水対策など共通する課題もあり、研究員よりアドバイスをいただきながら活発な意見交換が行われました。

最後に、研究所内の5月出荷のねぎ試験ほ場で実際の生育状況を確認し、品種や栽培について多くの質問が出されました。

普及センターでは、今後も若手農業者のスキルアップや交流を促進し、早期の経営安定を支援します。

の処分方法について講演いただきました。また、普及センターからは、令和4年度から「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」がwebで閲覧できるようになったことを情報提供しました。

参加者の多くが現在農業を取り扱っている若手農業者で、熱心に受講していました。終了後のアンケートでは、説明がわかりやすく、見やすい資料で勉強になった等の意見がありました。

普及センターでは、今後も担い手育成に向けた支援を行っていきます。



○ルールガイド講習会が開催されました 令和4年12月5日 栗原農業改良普及センター



令和4年11月29日(火)、栗原市若柳公民館で、栗原市生活研究グループ連絡協議会「令和4年度ルールガイド講習会」が開催され、グループ員9名が参加しました。ルールガイド講習会は生活の技の向上を目的としており、今年度は宮城県水産林政部水産振興課 魚食普及・消費拡大推進員を講師に、料理講習会が行われました。

はじめに、「魚の料理と捌き方」と題し、水産物の種類やそれらに含まれる栄養素、魚の料理方法等について講義をいただきました。

続いて、魚の捌き方を実演していただき、マアジのそぎ造り、たたき、アラ汁、スルメイカの細造り、ギンザケの平造り等盛りだくさんの内容で調理実習を行いました。センスが問われる盛り付けの工程では、各グループ員の個性が輝いた作品が生まれていました。

参加者からは、「魚の料理はとても奥が深くて勉強になった。」「魚を捌くのが苦手だったが好きになりそう。」「家庭でも魚を食べる機会を増やしたい。」等



○みやぎ農業未来塾(農業基礎勉強会を)開催しました

令和4年12月2日
亘理農業改良普及センター

令和4年11月22日(火) 亘理農業改良普及センターを会場に「みやぎ農業未来塾(農業基礎勉強会)」を開催しました。当日は、認定新規就農者や農業法人の採用5年目までの社員等27人が参加し、日々の農作物の栽培管理で農業を安全かつ効率的に使用できるよう学習しました。

講師の公益社団法人みどりの安全推進協会小川氏からは、①農業の基礎知識、②農業の使い方、③農業の安全使用、④RACコードと抵抗性対策、⑤農業

の声が聞かれました。

普及センターでは、今後も女性農業者のスキルアップやネットワークづくりを支援していきます。



○新たな担い手法人の設立を目指して

令和4年12月6日

大河原農業改良普及センター



角田市の高田萱場地区では、10名の個別農家が組織化・法人化に向けて話し合いを進めています。

話し合いは、県事業である「地域を守る、集落営農モデル支援事業」を活用し、外部のコーディネーターが進行する形で行われています。また、コーディネーターの他にも、弁護士等の外部の専門家が入り、定款や各規約など法人化に必要な組織内の約束事については細かな部分まで明文化し、以後の話し合いに活用できるようにしています。

普段接する機会の少ない弁護士等の専門家が入った話し合いは、お互いに良い刺激となっているようです。

年明け以降の法人設立に向け、話し合いも佳境を迎えています。コーディネーターの采配を普及指

導員も学びながら支援していく予定です。

○石巻4Hクラブ青空市の開催

令和4年12月7日

石巻農業改良普及センター



11月30日石巻合庁でのふれあいコンサートの開催に合わせ、石巻地域生活研究グループと石巻地区4Hクラブ連絡協議会合同で販売会を午前11時から午後1時まで行いました。

石巻4Hクラブ青空市として、クラブ員が栽培した新鮮な野菜や花苗などを直売し、コンサートに訪れた人や合同庁舎の職員等と農産物販売を通じた消費者交流を行いました。

ハウスのトマトやきゅうりは収穫終盤、露地の長ねぎや白菜、ブロッコリー、ほうれん草は今が旬で、シクラメンやパンジーの花苗、いなり寿司や太巻きなども好評で完売しました。

石巻4Hクラブは、石巻市と東松島市の農村青少年が農業知識や技術の習得と仲間づくりのため、若手農業者交流会や先進地視察研修、青空市などを行っており、新規就農者等の新入クラブ員も増え活動は活発になっています。

○東北農村青年会議秋田大会で登米4Hクラブ員が最優秀賞を受賞しました

令和4年12月8日

登米農業改良普及センター



令和4年11月1日(火)に第52回東北農村青年会議秋田大会が秋田県大仙市の大曲エンパイアホテル

ルで開催されました。同大会にはプロジェクト発表と意見発表の各部門があり、両部門の宮城県代表として選出された登米4Hクラブ員が発表を行いました。

プロジェクト発表の柳渕泰孝氏は自宅の経営における課題解決についての取り組みを、意見発表の熊谷利輝氏は自身の業務であった経験から感じた思いについて発表しました。

厳正な審査の結果、意見発表の部で、発表内容や聴衆に訴える発表態度が評価され、熊谷氏が最優秀賞を受賞しました。

熊谷氏は令和5年3月に東京で開催される全国農村教育青年会議の東北地区代表として推薦されることとなっており、更なる高みを目指した挑戦が期待されています。

○女性農業者集合研修を開催しました 令和4年12月20日 登米農業改良普及センター

令和4年12月9日(金)に登米合同庁舎でアグリレディースネットとめが「令和4年度女性農業者集合研修」を開催し、管内女性農業者9人が参加しました。



第一部の学習会では、オンライン講座「NEXT 女性リーダー育成スキルアップ研修」のうち、コミュニケーション講座「自分らしいリーダーシップを探す旅」を動画受講し、性格分析から自分の特性を活かしたリーダーシップのスタイルを見つけ出す良い機会となりました。参加者からは、「エゴグラムで自分の性格の特徴を知ることができておもしろかった」、「リーダーシップの実践はなかなか難しいと感じた」などの感想が聞かれました。



第二部のワークショップでは、フラワーショップ「花かご」の阿部あつ子氏を講師に迎え、お正月飾り

用にアレンジした苔玉づくりを行いました。講師に指導いただきながら、参加者は思い思いの感性で作成し、充実した研修会となりました。当普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

○仙南4Hクラブが先進地視察研修を開催 令和4年12月22日 大河原農業改良普及センター



令和4年12月9日に仙南地区農村青少年クラブ(仙南4Hクラブ)が福島市の古山果樹園を視察訪問しました。

講師を務めた古山代表からは、古山果樹園がコンセプトに掲げる「世界一甘い桃づくり」についてご説明いただきました。古山代表は4代続く果樹園を継承し、高糖度に特化した栽培技術を突き詰めて、自身で価格付けできる農業を実践されています。

各クラブ員に対しても「どのような農業を目指しているのか」と問いかけ、それを核に栽培技術を磨き、ブランドを構築するよう助言されました。

クラブ員は今後の農業経営に意欲がますます高まっている様子でした。

○みやぎ農業未来塾「農業経営力向上研修」を開催しました 令和4年12月26日 大崎農業改良普及センター



令和4年12月6日、13日に、みやぎ農業未来塾「農業経営力向上研修」を開催しました。「農業経営力向上研修」は、主に就農3年目までの管内の新規就農者を対象に、農業簿記の基礎から経営分析までを

学ぶ3回シリーズの研修です。第1～2回は、普及センター職員を講師に、「なぜ農業簿記が必要なのか」、「貸借対照表・損益計算書とは」、「決算の基本的な考え方」などの講義を行いました。講義のほかに仕訳の実習を行うなど、内容の濃い研修となりました。受講生からは、「決算について具体的な例が多くてわかりやすかった」などの声が聞かれました。

第3回目の研修は、令和5年2月2日(木)に、中小企業診断士の講師をお招きして、農業経営分析についてご講義いただく予定です。

○地元高校生が管内の新規就農者・農業法人について学びました

令和4年12月27日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年12月14日、南三陸町志津川地区において「令和4年度第2回気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。当日は、宮城県本吉響高校で農業を専攻する生徒4名を対象に、管内の新規就農者と農業法人を訪問し視察研修を行いました。

まずは、平成31年3月に新規就農し、自ら栽培した農産物も利用してキッチンカーでクレープの製造・販売を行う大沼ほか氏の取組を研修しました。大沼氏から、高校3年生の時、進路が決まっていなかったが、授業で先生が「第1次産業が無くなると国は滅びる。」と話され、農業に興味を持ったこと、農業大学校に進学し、その後農業の師と仰ぐことになる阿部さん夫妻に農業研修でお世話になり、農家を目指したこと、将来、大好きな地元の農村風景を見ながらのんびりできる農園カフェを開きたいこと等、就農に至ったきっかけや将来の夢についてお話しいただきました。

次に、東日本大震災後、災害ボランティアで南三陸町を訪れ、その後、南三陸町を活気づかせたいと、ぶどうの栽培からワインの製造・販売を行う農業法人を設立した南三陸ワイナリー株式会社の代表取締役佐々木道彦氏の取組を研修しました。南三陸ワイナリーでは醸造所を見学し、ワインの製造工程や醸造の際に気を付けていること、また、自分たちでワイン用ぶどうの栽培をしたり、ワインを通じて地元の農業や水産業、様々な企業とのつながりができたこと、目標は、ワインをきっかけに町全体とつながり、地域に味わいと賑わいを生み出していきたいこと等についてお話しいただきました。

将来の夢を楽しそうに話す大沼氏や、南三陸とつながり、賑わいを作りたいと熱く語る佐々木代表取締役に触発されたのか、生徒の皆さんからはたくさ

んの質問が出され、それぞれの心に強い印象が残る未来塾となりました。

○令和4年度農業次世代人材投資事業サポート巡回を実施しました

令和4年12月28日

登米農業改良普及センター

農業次世代人材投資事業(経営開始型)を活用している認定新規就農者(野菜6人、畜産3人)を対象に、10月から12月にかけて関係機関・団体と連携しサポート巡回を行いました。

今回の巡回対象である認定新規就農者は、概ね就農計画どおりの規模で経営していましたが、農業資材の価格高騰や天候に左右され、思うように作業が出来ない等不安の声が多く寄せられました。一方、この困難を乗り越えるため、作業性の向上や栽培品目の見直し、規模拡大に向けた検討に着手するなど前向きな意見も聞かれました。

普及センターでは今後も、関係機関・団体と連携しながら、新規就農者を含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。



③先端技術等の推進・普及による計効率化・省力化

○石巻市和湊にて「スマート農業」研修会が開催されました!

令和4年12月8日

石巻農業改良普及センター

令和4年11月30日に石巻市和湊にて「スマート農業」研修会が開催されました。本研修会には篤入営農組合の組合員と周辺生産者の合計23人が参加しました。

研修内容は「アグリテック農業の推進について」と

題して、スマート農業技術の紹介や県のアグリテックに関する施策やこれまでの取り組み状況について説明を行いました。

スマート農業技術の紹介ではアシスト田植え機やほ場管理システム、農業用ドローンなど県内で導入数が多いスマート農業技術の概要と昨年県で実施したすでにスマート農業機器を活用している生産者からのアンケート結果を併せて紹介し、各スマート農業技術の評価されている点や不満な点について説明しました。本研修のテーマであるアグリテック技術の導入は、これから1経営体の作付面積が拡大することや農業者の高齢化により就農人口が減少していくなかで取り組むべき課題になるということもあり、真剣に研修に向かう生産者のすがたが見られました。

当普及センターは、アグリテック技術のさらなる普及支援を行っていきます。



○第6回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました 令和4年12月14日 仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、令和4年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、4月から8月まで毎月1回、「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催してきました。第6回目となった今回は、これまでの勉強会で要望の多かった「土質に応じたほ場準備」をテーマに開催しました。参加人数は、新規取組予定者を含め8人でした。

当日、農研機構東北農業研究センター（以下「東北農研」という。）から、出芽・苗立ちの確保及び除草効果を高めるためのほ場準備と栽培技術についてご説明をいただきました。その後、参加者のほ場を2か所見学しながら、普及センターからは参加者の地

域の土質等について説明を行い、東北農研から今後の管理についてアドバイスをいただきました。意見交換の場では、参加者それぞれの土質や使用機械が異なることから、お互いのやり方や工夫点など活発に情報交換が行われ、次期作に向けて各々の管理方法をそれぞれ確認できたようでした。

普及センターでは、生産者同士のネットワークづくりを推進しながら、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○若手梨生産者交流会が開催されました 令和4年12月5日 仙台農業改良普及センター

JA いちかわ果樹部会と JA 仙台利府地区梨部会の若手生産者交流会が11月29日に開催され、JA いちかわ（千葉県市川市・船橋市の若手生産者）より16名、JA 仙台利府地区梨部会より5名の若手梨生産者が参加しました。

当交流会は、JA いちかわの若手梨生産者が JA 仙台利府地区梨部会の梨園視察に訪れる機会に合わせて、普及センターより若手生産者の意見交換会の申し出を行って開催することになったものです。



ほ場視察では、伊藤邦雄氏の IPM 技術を導入した梨栽培管理や宮城県での梨生育状況等について、JA いちかわ生産者から活発に質問がありました。



意見交換会では、千葉県東葛飾農業事務所担当者から市川市・船橋市の梨生産や販売の概要説明後、各地域の生産者代表から若手生産者の活動紹介がありました。その後、参加者から有望と見込まれる梨品種の情報や地域特性に合わせた単価設定等の販売方法、

地域の課題やその対応策、今後の産地の方向性等、短時間でしたが、多岐にわたる内容の情報交換が活発になされ、有意義な意見交換会となりました。

普及センターでは、今後も若手生産者育成支援を行い、利府梨の安定生産を支援していきます。

○JA みやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました 令和4年12月7日 登米農業改良普及センター

令和4年12月6日に、登米市豊里町でJAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催され、部会員約20名が参加しました。

現地検討では部会員2名のほ場を巡回し、定植の時期を踏まえた生育状況を確認し、越冬に備えた被覆資材の使用開始時期などについて意見交換が行われました。

普及センターからは、定植から活着までの管理と、野鳥飛来による被害防止策について確認しました。また、農作業安全についても今一度考える機会を設けるよう、注意喚起を行いました。

普及センターでは、今後ともそらまめ栽培を支援してまいります。



竹駒神社から宮司がお越しになり、組合長や来賓の岩沼市長らによって玉串奉奠が厳かに執り行われました。

新しい鉄骨ハウスには、日射量や土壌の水分量などからAIが判断し、灌水と施肥をほぼ自動的に行うシステムが導入されており、きゅうりの灌水や施肥に関する労力を大幅に削減できるほか、品質や収量も向上できると期待されています。

組合では、来年4月のきゅうりの栽培開始に向け、土づくりなど施設稼働に向けた準備に取り掛かることとしています。

普及センターとしても、園芸産出額の拡大に貢献する施設であり、積極的に技術支援してまいります。



○岩沼市玉浦地区に新しいきゅうりの生産施設が完成しました 令和4年12月8日 巨理農業改良普及センター



令和4年11月30日に、岩沼市の農事組合法人玉浦南部生産組合がきゅうりを生産するために整備した、新しい鉄骨ハウスの落成式が開催されました。

○JA みやぎ登米ねぎ部会の講習会が開催されました 令和4年12月8日 登米農業改良普及センター



令和4年12月6日、JAみやぎ登米ねぎ部会の講習会が開催され部会員20名が参加しました。はじめに、有限会社兵藤種苗商事からそれぞれの作型に適した品種の紹介と栽培管理のポイントについて説明があり、その後、普及センターから病害虫防除や農作業安全対策について説明を行いました。また、ベテラ

ンの生産者が講師となり、初心者向けに効率的な播種方法の実演や出荷調整時の注意点について指導が行われました。参加者は、市場からの高い評価を維持するためにも、品種選定から出荷まで気を抜かず、良質なねぎの生産に取り組んでいくことを確認していました。

○JA 新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の視察研修が開催されました 令和4年12月9日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年12月7日、南三陸地域花卉生産協議会主催による視察研修会が開催され、生産者3名、JA職員1名、普及センター1名が参加しました。

視察先は県内有数の輪ギク産地である県南柴田町で、周年栽培を行っている猪又氏を視察しました。

以前はキクの販売額が3億円の産地でしたが、現在はトルコギキョウの生産が増え、キクは露地栽培が中心になったそうですが、猪又氏はキクにこだわり、周年出荷を行っているとのことでした。

南三陸の生産者は燃油や資材の高騰から、冬場の生産を休む人が多くなっており、猪又氏の取り組みを見て大いに刺激を受けた様子でした。

また、栽培している品種についてや冬場の温度管理などについて、意見交換が活発に行われお互いに有意義な情報交換ができたようでした。

○JA みやぎ登米花卉部会のストック出荷査定会及び現地検討会が開催されました 令和4年12月14日 登米農業改良普及センター



ストック出荷の最盛期に向けて、令和4年11月24日にJAみやぎ登米花卉部会ストック専門部の出荷査

定会及び現地検討会が大瀬集出荷場と石越町、中田町の栽培施設で開催され、専門部員、市場担当者、関係機関等18名が参加しました。

出荷査定会では、市場関係者から販売状況や出荷時の留意点について情報提供を受けた後、JA担当者から共選出荷としての選別、箱詰めの注意点について説明があり、活発な意見交換が行われました。また、普及センターから今後の病虫害防除等の栽培管理について情報提供を行いました。

現地検討会では近々収穫を迎えるハウス等を巡回し、生育・品質とも良好であることを確認しました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた高品質生産への支援を行ってまいります。

○きゅうりの実績検討会及び品種選定会が開催されました 令和4年12月16日 栗原農業改良普及センター



令和4年12月8日(木)、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会「令和4年産実績検討会並びに令和5年産品種選定会」がJA新みやぎ築館支店で開催されました。部会員10名のほか、JA新みやぎ、種苗メーカー2社、JA全農みやぎ、普及センターの担当者が出席しました。

令和4年産実績の検討では、JA新みやぎ及びJA全農みやぎより令和4年の気象や生産状況を振り返りながら、販売実績についての報告がありました。続いて、令和5年産品種選定会にあたり、種苗メーカーから施設及び露地栽培で推奨する品種の紹介と、栽培のポイントについて説明がありました。

普及センターからは、今年度実施した農薬展示ほの試験結果と土壌分析について情報提供を行いました。普及センターでは、今後もきゅうりの品質向上と安定生産に向けて支援していきます。

○登米ポテト組合ばれいしょの新規栽培者向け講習会及び打合せ会が実施されました 令和4年12月16日 登米農業改良普及センター

令和4年12月13日に、登米市中田町で登米ぼてと組合ばれいしょの新規栽培者向け講習会及び打合わせ会が実施され、組合員7人が参加しました。

講習会では、普及センターから、新規栽培者向けに、栽培概要や注意点などについての説明を行いました。

また、ベテラン生産者にも、今年の栽培を振り返りながら、雑草防除について今一度技術的な対策を見直す機会を設けるよう提案しました。

打ち合わせ会では、来年に向けた選果機の運用や組合員同士の協力体制等について話し合わせ、活発な議論が行われました。

普及センターでは、今後もばれいしょの生産振興に向けて支援を行ってまいります。



○JA 加美よつばねぎ栽培講習会を開催しました 令和4年 12月 20日 大崎農業改良普及センター

大崎管内の加美郡は、県内一のねぎ産地です。当普及センターでは、プロジェクト課題を通して冬越し囲い栽培の品質向上支援と混合堆肥複合肥料の導入支援、排水改良支援を行っています。

令和4年12月8日にJA加美よつばねぎ栽培講習会が開催され、約60名の生産者が出席しました。当普及センターからは、今年被害の大きかった病害虫について、気象データを振り返りながら、防除のポイントを説明しました。また、本年度から取り組んでいるプロジェクト課題の進捗状況についても情報提供を行いました。講習が終わった後には、雑草に関する相談や排水対策について詳しく知りたいなど、次作に向けて積極的に情報収集する様子が見られました。

当普及センターでは、今後も加美よつば管内で生産されるねぎの品質向上に向けた支援を行ってまいります。

○JA 新みやぎあさひなぶどう部会せん定講習会 が開催されました 令和4年 12月 20日 仙台農業改良普及センター



令和4年12月16日、JA新みやぎあさひなぶどう部会員のシャインマスカット栽培ハウスにおいてせん定講習会が開催され、部会員18名が参加しました。

当日は、普及センターから、栽培資料をもとに基本的なせん定の仕方や目標とする結果母枝の数等について説明し、生産者とともに実際に枝を見ながら、枝の切り方や今年の枝の登熟度や太さ、芽の良し悪し等の確認、結果部が飛んでいる（空いている）場合の対応策等について、活発に意見を出し合いながら、実践的なせん定方法について共有しました。

また、当部会の販売戦略策定支援の一環として、JAと普及センターで実施したシャインマスカットの実需者調査結果の報告を行い、各販売店舗での取り扱い状況や売れ筋の房重・価格、実需者ニーズ等を説明しました。今後、役員会等で、この内容をもとに、販売方法や部会での対応策等について検討する計画になっています。

普及センターでは、今後も、高品質なぶどうの生産拡大や産地PRに向けて、同部会を支援していきます。

○JA 新みやぎ南三陸地区せり出荷目揃え会が開催されました 令和4年 12月 20日 気仙沼農業改良普及センター

令和4年12月9日、JA新みやぎ南三陸統括営農センターが主催となり地区の生産者を対象にせり出荷目揃え会が開催されました。当日は生産者及び栽培に興味を持っている農業者が計8名出席しました。

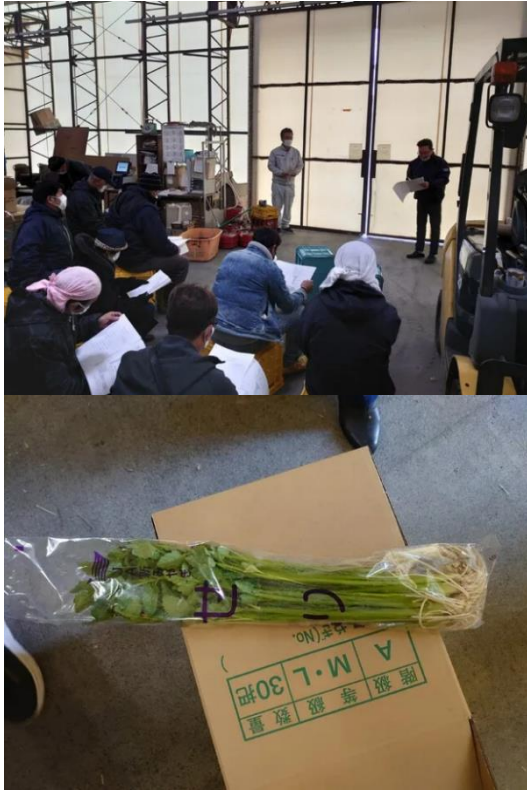
初めにJAの担当者から出荷規格の確認があり、生産者の持ち込んだせりを見本として選別基準や量目の確認を行いました。産地としての評価に繋がるため、出荷規格については今まで以上に遵守するよう呼びかけていました。

また、出荷先である株式会社石巻青果の担当者からは、今年度の販売情勢や今後の見通しについて説明がありました。販売面は小売りを中心に堅調であり、大きな値崩れなく推移しているとのことでした。また、南三陸町産のせりについては、実需者側から高く評価されているとのことでした。

普及センターからは栽培管理について情報提供を行いました。特に12月は保温目的で水位を上げるため、葉枯病等の病害発生が多くなることが予想されるため、銅剤等を散布し需要期の病害発生を予防することを推奨しました。また、県内の産地で発生しているウイルス病について、南三陸町内の蔓延を防止

するため、抜き取りの徹底を呼びかけました。

生産者から量目や包装について活発に質問や意見交換が行われ、産地形成に向けた意識の高まりを感じました。気仙沼農業改良普及センターでは、せりの生産拡大に向けて関係機関と一体となり支援していきます。



○ぶどうせん定講習会 令和4年12月26日 大崎農業改良普及センター



普及センターでは園芸振興や中山間地域の活性化、管内直売所の販売額向上などを目的に令和3年度からプロジェクト課題「直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売」を実施しています。

商品価値の高いぶどうの果実を生産するためには、一年をとおして季節ごとに様々な作業が必要になりますが、令和4年12月21日に大崎市岩出山の生産者ほ場でこの時期の重要な管理であるせん定に関する講習会を開催しました。

近年、全国的に比較的簡単に樹形形成が可能な短果枝せん定による整枝法が普及していますが、管内

でもこの方法で樹形形成を行う生産者が増えてきています。このため、講習会では普及センター職員から短果枝せん定の基本である結果母枝の2芽目の直下で剪除する犠牲芽せん定や翌年の発芽を確実にするための芽傷の入れ方などを中心に説明を行いました。

管内では最近「シャインマスカット」などのぶどうの栽培面積が増加しており、近隣直売所での販売を行う生産者も増えつつあり、9月頃から「あ・ら・伊達道の駅」や「やくらい土産センター」などの直売所で販売されますので、ぜひお買い求めいただき、御賞味くださいますようお願いいたします。

○日本なしのせん定講習会が開催されました 令和4年12月28日 美里農業改良普及センター



「北浦梨」は大正時代から続く美里町の特産で、当町は県内有数のなし産地です。現在は「幸水」、「豊水」、「あきづき」等、様々な品種が栽培されています。

JA新みやぎ北浦梨部会（部会員37名）は、令和5年産の高品質な果実生産に向けて、12月16日に農業・園芸総合研究所 小島由美子 首席主任研究員を招いてせん定講習会を開催しました。

当日は雪が降りしきるあいにくの天気でしたが、部会員15名が参加しました。

初めに講習会開催園主の方から、園地概要の説明とせん定を行う「あきづき」の樹について「主枝1本の再育成と結果枝確保について、検討・アドバイスいただきたい」との話があり、その後部会員で意見を出し合いながらせん定を行いました。

せん定後、小島首席主任研究員から「品種によってせん定方法が異なるため、特性を踏まえてせん定を行うことを心掛けていただきたい。また、隣接樹と枝が重なり合うと日射や薬剤透過が悪くなり、当年の収量や果実品質だけでなく翌年以降の花芽着生や枝伸びに影響するため、思い切って主枝の本数を減らす或いは間伐することを検討いただきたい。」とのせん定の基本に立ち返った助言をいただきました。

当普及センターでは、今後も部会活動を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆の刈取適期判定巡回を行いました 令和4年12月7日 栗原農業改良普及センター

11月18日に栗原市若柳地区の農事組合法人ふ

くおかを対象に、大豆の刈取適期判定巡回を行いました。普及センターでは、本年度から2年間、農事組合法人ふくおかを対象とし、大豆の収量・品質向上を目的として重点的に指導を行っています。

本年は7月の大雨により、ほ場が冠水しましたが、排水対策の実施により生育は回復し、無事収穫期を迎えることができました。普及センター職員が法人役員とともに、大豆のほ場を巡回し、茎と子実の成熟状況を確認し、今後の収穫時期について検討を行いました。

農事組合法人ふくおかでは11月下旬から大豆の収穫を開始し、12月上旬には収穫作業は終了する見込みです。収穫作業終了後には、本年の大豆の作柄を振り返る検討会の開催を予定しており、来年度に向け、さらなる収量向上を目指していきます。



○れんこんの掘り取り作業が行われました 令和4年12月13日 登米農業改良普及センター



登米市東和町内ノ目地区は、農家の高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加傾向にあることから、ほ場整備事業による農地の大区画化、担い手法人への集積による生産性の向上、新たな高収益作物導入による収益性の向上を図っています。

先日、当地区で高収益作物の試験栽培として栽培している「れんこん」の掘り取り作業が実施されました。試験ほ場は昨年度に植え付け開始したもので、今年の3月にはほ場の一部から収穫しましたが、この時準備したポンプは水圧が弱く作業効率が悪かったので、今回はより高水圧のポンプを準備して掘り取り作業を行いました。

最初はポンプの水圧に負けて掘り残しが多く手掘り作業が大変でしたが、コツをつかんでからはれんこんが水面に浮いてくるようになり、だいぶ楽に作業ができるようになりました。

普及センターでは、農地整備に関わる関係機関と連携しながら、地域農業の継続的発展を支援しています。

○松山町酒米研究会作柄検討会が開催されました 令和4年12月19日 美里農業改良普及センター

大崎市松山地域で活動している松山町酒米研究会（以下「研究会」）は、地元酒蔵の（株）一ノ蔵と連携しながら酒米づくりに取り組んでいる生産者組織です。研究会では普及センターやJAと共に酒米の生育調査を実施するなど、生産者が主体となって高品質な酒米生産に取り組んでいます。

12月10日には、研究会が今年度の作柄を振り返る「松山町酒米研究会作柄検討会」が開催されました。普及センターからは今年度の水稻の作柄全般について説明したのち、プロジェクト課題として取り組んでいる新たな酒造好適米「吟のいろは」の調査結果などについても紹介しました。

本年産の作柄は、7月中旬の豪雨の影響もあり収量は前年より少ない傾向にありましたが、生産者の努力の甲斐があり品質がとても高いという結果となりました。「吟のいろは」については、心白発現率が平年並みで粒は大きく、タンパク質含量は低めで酒造好適米として好適である事などを説明しました。関係機関からは、徐々に酒米の需要も回復傾向にあるなど明るい話題も提供され、来年度に向けて各自思いを新たにしていました。

普及センターでは、今後も研究会の活動を支援していきます。



○大崎地域水稻乾田直播栽培研修会を開催しました 令和4年12月22日 大崎農業改良普及センター

宮城県では、省力・低コスト技術である水稻乾田直播栽培の取組面積が年々増加しています。一方、

大崎管内では取組農家が少なく、また、これまでは研修受講の機会がなかったことから、個人が独自に技術の確立を模索している状況にありました。

そこで、普及センターでは、令和4年12月5日（月）に、大崎地域水稲乾田直播栽培研修会を開催しました。研修会には、生産者、関係機関合わせて24名が参加し、東北農業研究センターや古川農業試験場の研究員を講師に、技術概要や栽培管理上の注意点について学びました。また、普及センターからは、管内の取組状況や生育調査結果について情報提供を行いました。生産者からは、必要となる農業機械や収量・食味等について、積極的な質問があり、大崎管内での取組拡大に向けて有意義な研修会となりました。

普及センターでは、水稲乾田直播栽培の技術確立に向け、引き続き支援していきます。



○令和4年度稲作実践盟友会 稲作経営総合検討会が開催されました
令和4年12月23日
栗原農業改良普及センター



令和4年12月19日に、稲作実践盟友会主催の稲作経営総合検討会が開催されました。稲作実践盟友会は、栗原市内の大規模稲作経営者らにより、生産性の高い米づくりと情報交換を目的に平成5年に設立された組織で、設立以来、毎年「ひとめぼれ」の多収穫コンクールを行っています。

本検討会では、今年度のコンクールの審査結果報告や入賞者の事例発表が行われた後、普及センターから稲作の作柄概況についての説明を行い、その後各農薬メーカー及び種苗会社から新農薬や緑肥等についての情報提供が行われました。検討会では、本年の作柄概況や新農薬の流用法等について適宜質疑応

答が行われ、活発な意見交換の場となりました。

○令和4年度 JA みやぎ登米米山水稲部会稲作総合検討会が開催されました
令和4年12月26日
登米農業改良普及センター



令和4年12月16日に、JA みやぎ登米米山水稲部会の稲作総合検討会が開催され、部会員14名が参加しました。

はじめに、普及センターから令和4年の水稲の作柄について説明を行い、その後、全農みやぎから資材情勢について、JA みやぎ登米から米穀情勢について、各メーカーから展示ほの成績や資材の紹介がありました。最後に JA みやぎ登米から部会員の坪刈り調査結果について説明がありました。部会員からは、表層剥離の対策や除草剤に関する質問があり、来年度の作付けに向けた意見交換が行われました。

今年度は、6月上旬の低温・寡照や、7月中旬の大雨などの影響が心配されましたが、7月下旬以降は天候に恵まれ、宮城県北部の作況指数は「99」の平年並、登米管内のうるち米の一等米比率は97.0%と高い品質となりました。

普及センターでは、今後も水稲の品質向上、安定生産に向けた支援を行ってまいります。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○大崎市「ささ王決定戦 2022」が開催される
令和4年12月7日
大崎農業改良普及センター



令和4年11月25日(金)、宮城県古川農業試験場を会場に、大崎の米「ささ結」ブランドコンソーシアムと大崎市が主催する「ささ王決定戦2022」の最終審査が行われました。この大会は「ササニシキ」とその直系「商標名 ささ結(品種名は東北194号)」のおいしさを競う食味コンテストで、ささ系品種の復権とブランド確立に向けた取組です。

6回目の開催となった今年は、県内外から86点(75人)の応募があり、機器分析による整粒歩合やタンパク含量などによる一次審査を通過した10点(9人)について、6人の審査委員による食味官能審査が行われ、「ささ結」を出品した関孝浩さん(大崎市)が第6代ささ王に選ばれました。

生産者の皆さんのささ系品種への愛着や米づくりへの意気込み、こだわりが感じられ、「米どころ大崎」の高いポテンシャルを再認識できた大会でした。

○金のいぶき栽培拡大に向けた研修会を開催しました

令和4年12月9日

気仙沼農業改良普及センター



「金のいぶき」はお米の品種の中でも珍しい玄米食専用品種です。通常の玄米の3倍もの大きさを誇る胚芽部分には、GABAやビタミンEなどの栄養成分が豊富に含まれ、白米と同じように簡単に炊けます。

現在は需要に対して供給が追いついておらず、生産の拡大が求められています。

一方、「金のいぶき」は、施肥や病害虫の防除などきめ細やかな栽培管理が必要な品種であり、当普及センターでも昨年度から管内に普及展示ほを設置し、地域の条件にあった栽培方法を検討してきました。

11月16日に開催した研修会では、展示ほの管理を担当いただいた株式会社小峯興業(気仙沼市本吉町)の芳賀社長から、経験を踏まえた栽培の留意点を、県内の米卸業者である株式会社タカシヨク(栗原市)の佐藤社長から、需給動向についての御講演をいただいたほか、栽培方法等について普及センターから説明しました。

多くの消費者の方々に「金のいぶき」を味わっていただくとともに、管内水稻生産者の経営発展の一助となるよう、当普及センターでは、今後も栽培実証等の支援を継続していきます。

御興味のある農家の皆様は、是非お問い合わせください。

⑦地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○地元高校生が鳥獣害対策について学びました

令和4年12月5日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年11月16日、南三陸町歌津田表地区において「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。当日は、参加した宮城県本吉響高校で農業を専攻する生徒5名を対象に、田表集落代表の千葉氏から集落の鳥獣被害の現状について、また、宮城県気仙沼農業改良普及センターから鳥獣害対策の基本について説明をしました。

その後、野生動物を呼び寄せてしまう恐れがある、家の方の柿の実を、みんなで除去しました。柿の木は約3mの樹高があり、高枝切りばさみを使っての不慣れな作業でしたが、終わる頃にはスムーズに実を取れるようになり、約2時間でたくさん成っていた柿の実を全て取ることができました。

終了後のアンケートには「これからも協力できることはやりたい。」「小さい子にも、今回のような体験学習をすると、楽しいと思ってくれるのではないか。」と前向きな意見が出され、農村集落の課題をより深く学習できた未来塾となりました。一から鳥獣害対策の基本について説明をしました。

その後、野生動物を呼び寄せてしまう恐れがある、家の方の柿の実を、みんなで除去しました。柿の木は約3mの樹高があり、高枝切りばさみを使っての不慣れな作業でしたが、終わる頃にはスムーズに実を取れるようになり、約2時間でたくさん成っていた柿の実を全て取ることができました。

終了後のアンケートには「これからも協力できることはやりたい。」「小さい子にも、今回のような体験学習をすると、楽しいと思ってくれるのではないか。」と前向きな意見が出され、農村集落の課題をより深く学習できた未来塾となりました。

○宮城県庁において生活研究グループの販売会が行われました

令和4年12月7日

登米農業改良普及センター

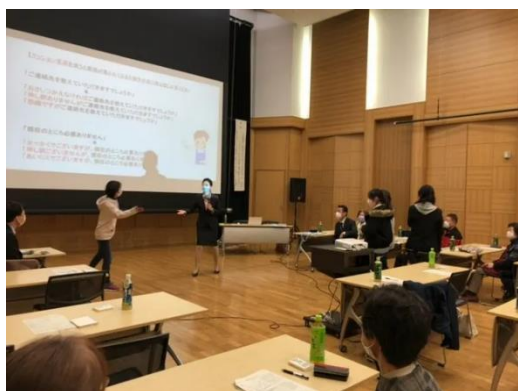
宮城県庁1階ロビーにて県内生活研究グループの会員に令和4年11月17日、18日の2日間にわたり、よる農産物や加工品の販売会が行われました。17日の販売会では、登米地区生活研究グループが薬物野

菜や根菜類、特産のりんごを使った蒸しパンや手作りこんにやく等を出品しました。今回、登米地区は初めての参加でしたが、販売開始早々、たくさんの来場者が訪れ、「この野菜はどのように調理したら美味しいか」といった質問や「手作りのこんにやくは珍しい」といった声をいただきました。

今後も普及センターでは生活研究グループの活動をはじめ、女性農業者の支援を行ってまいります。



○やくらい土産センターおもてなし研修会を実施しました
令和4年 12月 12日
大崎農業改良普及センター



やくらい土産センターは農事組合法人さんちやん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地域である加美町の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年の売り上げは減少傾向にあるため、売り場づくりや販売品目の改善に向けた取組を支援しています。

令和4年12月6日には、令和グロースバリュー

株式会社倉島由美氏に講師としてお越しいただき、お客様に認められる“おもてなし”に焦点を当てた研修会を開催しました。講演の間は、笑いが沸き上がったり、大きな顔きがあったりと、参加者が楽しく売り場づくりについて学んでいる様子が見られました。参加者からは、「服装、身だしなみなどのルールを守ることも仕事の一つと言われて、ハッと気づかされた」、「電話対応の伝え方に困っていたので、クッション言葉をどんどん使っていきたい」などの感想をいただきました。

当普及センターでは、今後もやくらい土産センターを拠点として、中山間地域の活性化に向けた支援を行ってまいります。

○「JA 新みやぎ南三陸地区農産物共進会」が開催されました
令和4年 12月 13日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年11月13日（日）にJA新みやぎ南三陸地区農産物共進会が気仙沼営農センター特設会場で開催されました。昨年に引き続き、同日開催されていた「JAまつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりましたが、農業者の生産意欲の向上と消費者との関係強化を図るため、共進会単独で開催されました。

JA新みやぎ南三陸地区管内から野菜、果実、穀類の部などで合計311点が出品され、いずれも甲乙付けがたい出来栄でした。前日の11月12日に行われた審査会では、当普及センター職員も審査にあたり、色、形状、揃い、新鮮さなどを基準に金賞5点（甘藷、白菜、きゅうり、りんご、梨）、銀賞7点、銅賞15点が選定されました。午後には販売会があり、地場農産物の質の高さを地元消費者等に広く知っていただく良い機会となりました。

○直売所の活性化に向けた研修会を開催しました
令和4年 12月 14日
大崎農業改良普及センター

加美町小野田地区の薬菜山にある「やくらい土産センター」は平成6年創業の農産物直売所で、これまで中山間地であるこの地域の農業活性化に寄与してきました。

しかし、最近では高齢化などによる出荷量の減少やそれに伴う販売額減少などの課題が生じてきています。

そこで普及センターでは、このような課題を解決

し、直売所の活性化を図るための一連の研修会を開催することとし、その第1回目としてより魅力のある品ぞろえを実現するため、収益性の高い新たな作物の導入について提案する研修会を開催しました。

やくらい土産センターなどの中山間地に立地する直売所では、イノシシやクマなどの被害が多いことや積雪により冬場の品揃えが少なくなることから、普及センターと特用林産物を所管する林業振興部の職員から、獣害に強く冬場でも出荷可能な作物を中心に野菜、花き、果樹、きのこ類等の提案を行いました。

研修会終了後に行ったアンケート調査では、今回提案を行った複数の作物について新たに組みこんでみたいとの回答があり、今後新たな品目の増加が期待されます。

普及センターでは、今後も様々な研修会を開催し、直売所の活性化を支援していきます。



○「令和4年度石巻地域農福連携推進研修会」を開催しました

令和4年12月19日

石巻農業改良普及センター



石巻地域での農福連携の取組拡大を図るため、12月1日に石巻合同庁舎において「石巻地域農福連携推進研修会」を開催しました。

研修会では、福島県授産事業振興会の農福連携総括コーディネーターとして活躍されている渡部栄昭氏から「福島県の農福連携～マッチングの現状と課題～」と題して講演がありました。福島県における農福連携の支援体制をはじめ、マッチング支援の実際、障がい福祉サービス事業所における6次化商品のブランド力向上等、渡部氏の豊富な経験を基に具体的にお話いただき、非常に興味深い内容でした。

出席者は農業関係者・福祉関係者等約40人で、講師の話しに熱心に耳を傾け、農福連携、マッチング支

援の実際について理解を深める有意義な研修会になりました。

実際に農福連携で、月1回農作業を依頼している農業者も参加し、「さらに理解を深めた、仲間の農業者にも農福連携の意義を伝えていきたい」と話していました。

普及センターでは、障害者の方々の農業分野での活躍に向けて、引き続き、農福連携を推進していきます。

○美里地区女性農業者キャリアアップ研修会を開催しました

令和4年12月19日

美里農業改良普及センター

地域農業の6次産業化等が図られている中で、美里地域においても農産物直売や農産加工、農家レストラン等のアグリビジネスに関わる農業法人や農業者も多く、その中で女性農業者が担う役割が大きくなっています。

そこで、管内女性農業者を対象に、農産物の6次化に総合的に取り組む法人と、農産物直売所を視察する移動研修会を12月5日に開催しました。



初めに、白石市の「一般社団法人みのり」を視察しました。「一般社団法人みのり」では、農産物加工、検査、地域食材を使用したレストランを一体的に運営しており、地元農産物を活用した様々な商品開発についてお話を伺いました。法人では、食品の安全確保を第一に、細心の注意を払って加工しており、加工施設も厳しい基準に対応しています。

施設の見学後に参加者からは、食に携わる一員として、食の安全に対する意識をさらに強めたいといった感想が出されました。



また午後からは異なる陳列方法（商品別陳列、コンテナ陳列）を取る農産物直売所2か所を視察しました。

二つの直売所を見比べ、参加者からは「商品別陳列はアイテムごとに集められているので、目当てのものが探しやすい。」「コンテナ陳列は、生産者名と顔写真が掲示され、珍しい野菜を陳列するなど生産者の個性が出ている。」といった意見交換がされました。普及センターでは、今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します

○JA新みやぎ農産物直売所「菜果好(なかよし)」のアドバイザー指導会が開催されました 令和4年12月20日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年12月1日、JA新みやぎ農産物直売所「菜果好(なかよし)」の販売向上のためアドバイザーによる指導会が開催されました。

当日は、アドバイザーとして有限会社ベネットの青木代表取締役をお招きし、出荷者2名、農協直売所スタッフ5名、県関係者2名が参加しました。

菜果好は、気仙沼市内にある農協直営の農産物直売所で、旧南三陸農協が平成21年に設立しました。

開業当初から新鮮な農産物を求め市内の消費者が集まる直売所で、開業から10年以上が経っても人気がありますが、さらに売り上げを伸ばすため、農産物直売所の運営改善に造詣の深い青木氏を招へし、11月に店内の売り場や商品、出荷のルールなどを点検してもらい、今回の指導会を向かえました。

青木氏の指導は、直売所が抱える悩みを他の直売所がどのように改善して、売り上げ改善につなげたかなど、具体的な事例で指導を行うため、参加者からは、より具体的な質問が出され1時間以上質疑が続きました。

令和5年2月に3回目の指導会を行う予定にしており、今回の指導会で青木氏から提案された改善点を菜果好がどの程度反映できたか、反響はどうだったのかを確認することとしています。

普及センターでは、売れる直売所づくりの支援を今後も継続していきます。

○美里地区女性農業者技術向上講座を開催しました 令和4年12月21日 美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは、自家生産物を利用した商品づくりなど、研修会を通し、女性農業者のスキルアップを支援しています。

令和4年12月14日には、女性農業者技術向上講座として、「食材王国みやぎ伝え人」の山家眞氏を講師に、こんにゃくの栽培と加工技術について学ぶ

研修会を開催しました。

講師からこんにゃく芋の特性などについて話を伺った後、今年収穫したこんにゃく芋を材料にこんにゃくづくりを行いました。

こんにゃく芋は以前は県内で多く栽培されていましたが、今は栽培者が減少しており、参加者の中にはこんにゃく芋を初めて見たという方もいました。講師の手本を見ながら手際よく加工を行い、時間内にこんにゃくを完成させることができました。

また、こんにゃく芋の栽培講習会も行われ、参加者からは栽培に適したほ場条件について質問が出されました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します。



○若手女性農業者が石巻地域の伝承料理を学びました 令和4年12月26日 石巻農業改良普及センター

令和4年12月13日にJAいしのまき河南総合センターを会場に、生活研究グループ員やベジ☆hope会員を対象に石巻地域の伝承料理講習会を開催しました。

今回は、ベジ☆hopeの会員から要望のあった、石巻地域の伝承料理「おくずかけ」をメインに生活研究グループ員が講師となり作り方を教わりました。

ベジ☆hopeのメンバーは、県外出身者が多く、初

めて「おくずかけ」の作り方を学び、とてもおいしい、自宅でも作りたいという声が聞かれました。他に、お正月向きのサラダ寒天、鶏肉の八幡巻きその他、出汁を取った後の鰹節を使った即席ふりかけやごぼうのきんぴら等、余った材料であつという間に一品を仕上げるお母さん方の裏技も学ぶことができ、好評でした。

普及センターでは、引き続き女性農業者の要望を聞きながら、世代を超えた学びの場を提供していく予定です。



⑩要請・緊急対策、その他

○仙南農業士会と仙台農業士会との交流会が開催されました！ 令和4年12月26日 大河原農業改良普及センター

令和4年12月6日に仙南地域で仙南農業士会と仙台農業士会との交流会が開催されました。仙南農業士会からは12名、仙台農業士会からは4名の合計16名が参加しました。

(有)角田健土農場(角田市)、ヨーグルト工房Atreyu(蔵王町)、木須果樹園(白石市)の3か所を視察しました。

視察先は、土地利用型、酪農・6次化、果樹で様々な仙南地域の特色ある経営形態を視察し、参加者は興味深そうにしていました。

質疑応答も多く、参加者からは「初めての試みであったが、楽しかった。」との感想もあり盛況のうちに終了しました。



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.190

発行日:2022年1月18日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp